

原告意見陳述

原告 関根 真澄

2011年11月11日、私たち
は泊原発の廃炉を求めて、第1
次原告612人と弁護団68人
で札幌地方裁判所に提訴しま
した。その後第2次原告621
人と賛同人を加え約3,000
人が「泊原発の廃炉をめざす会」
を結成し、ニュースの発行や講
演会などを定期的に行っています。
私は現在、その会の事務
局長をしています。関根真澄、通
称間谷真澄と申します。個人的
には、国際人権擁護NGOのメ
ンバーとして30年以上活動し
ています。今回の裁判も人格権
で争うということから参加し
ました。

さて、提訴から10年が経ちま
したが、まだ裁判は継続してい
ます。

昨年11月の口頭弁論期日で、
原告の居住地のリストに基づき、
原発から30km圏内と250
km圏内に居住している原告の
人数を主張しました。これに伴
い原告の住所を再確認するこ
とになりました。定期的に
ニュースを発送している方た

前回で意見陳述をする予定
だった元警察官の原告も、裁判
長に思いを届ける前に急逝され
ました。その方は、「元警察官とい
う立場から原発のテロリズム対
策について意見陳述する予定で
いた。いままでの原告とは違つ
た視点からの意見陳述を裁判
長にもぜひ聞いていただきた
かったです。

(詳細は3P遺稿で紹介)

提訴から10年、その間、泊原発
が2013年に再稼働申請して
から8年、長く検討されていました
案件に一つの答えが出ました
が、そのほか地震、津波、火山に
関する審査は残り、順調に進む
かは見通せていません。

北電はこの間の空白を埋める
べく、再稼働に向けて積極的に
動き出しています。再稼働する
と使用済み核燃料が増え、ます
ます、北海道は核「ミニごみ箱」として全国から狙われます。

これまで、何人の原告が意
見陳述をしてきました。何故
ていきましたが、それ以外の方た
ちは住所確認の案内を送り、
去されていることが分かりまし
た。



再稼働すれば「ミニが出る。」
ミニが出れば埋めなくてはなら
ない。今ここで止めておけば、
これ以上の「ミニ」は出できませ
ん。単純なことです。

北海道の上空は通常、西風が
吹いていて、泊原発で福島のよ
うな原発事故が起きれば、西風
に乗って、泊から65km東の札
幌は直撃します。風に乗って流
された放射性物質は600m程
度の高さの狩勝峠を超えて、十勝
平野に流れ込み全道を汚染しま
す。そうなれば農作物への影響
は計り知れず、北海道の「プラン
ド」は消滅してしまいます。

日本では昨年から最大震度
5以上の地震が8回、多くの
死傷者を出した集中豪雨など
自然災害が続いている。特に
に昨年2月の福島県沖地震は最
大震度6強を観測し、気象庁で

自然災害が続いている。特に
に昨年2月の福島県沖地震は最
大震度6強を観測し、気象庁で

ちは転居されても住所は分かつ
ていましたが、それ以外の方た
ちは住所確認の案内を送り、
去されていることが分かりまし
た。

一人ひとり確認していくまし
た。その際、20人以上の方がご逝
きになられました。原告が裁判長
に伝えたいことは、原発が単に
リスクが高いということだけ
ではなく、原発に頼らなくても
効率よい安全なエネルギーの
確保はそんなに難しくないと
思うからです。電力会社は既に
あるもの(つまり原発ですが)
を利用して、手取り早いエネ
ルギーの確保を考えているか
ら原発を手放せないのです。

見陳述をしてきました。何故
はなく、安全なエネルギーを目
指し、原発を手放すべきです。

私たちには未来の人たちへの
責任があります。アイヌの方々
が言うように先人が残した大地
は神様からの借り物であり、こ
の自然を守り、そのまま未来へ
残さなくてはなりません。

また、格言にある「老いたる馬
は道を知る」とは、道に迷つたと
いえば、迷うことなく道に出
る。つまり、経験を積んだものは
行くべき道を知っている。福島
で知った経験から道を誤るな
という教えです。

裁判長には、私たちの切実な
声を聞いていただき、適切なご
判断で早期に結審するようお
願いいたします。

自然災害は人間では止めら
れませんが、原発は人間の意志
で止められます。

裁判長には、私たちの切実な
声を聞いていただき、適切なご
判断で早期に結審するようお
願いいたします。

一 結審となりました。

私の意見陳述後、谷口裁判長
は唐突に「結審します」と言いま
した。北電側の弁護団長の
「ちょっと待ってください。相談
します」という言葉をさえぎつ
て「結審」と強く言いました。

まったく予測していなかったの
で、思わず後ろにいる弁護団を
振り返り、「結審」となったことを
理解しました。提訴から10年か
かりました。

判決は5月31日に言い渡され、
司法の判断が示されます。

道内外の1、200人余りの
原告とそれを上回る賛同人のみ
なさまに良い報告ができるこ
とを祈っています。

泊原発の廃炉をめざす会
事務局長 関谷 真澄